

平成 28 年 12 月 20 日

図書印刷 株式会社
代表取締役社長 川田 和照 様

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、図書印刷株式会社（以下「当社」といいます。）株式を保有する、「INERTRUST TRUSTEES (CAYMAN) LIMITED SOLELY IN ITS CAPACITY AS TRUSTEE OF JAPAN-UP」と投資一任契約を締結している株式会社ストラテジックキャピタルの丸木と申します。

平生は、当社の専務取締役である矢野様に株主としての要望をお伝えしており、また川田社長とも直接お会いできるようお願いしておりますがなかなか叶いませんので、これまでお伝えしていることと重複いたしますが、手紙を書かせていただきました。

当社の最大の課題は、保有する巨額のリクルートホールディングス（以下「リ社」といいます）株式であり、そして、この売却代金を活用して如何にして当社の価値を向上させられるかということです。既に、本年 9 月に保有するリ社株式の半分を売却されましたが、この状況は変わっておりません。

- ① まず、長期低落傾向にある当社の本業を再構築するために、事業の再構築及び M&A 等に資金を振り向け、当社のキャッシュフローの拡大を目指していただきたいと存じます。
- ② そして、使い切れないリ社株式の売却代金は株主還元を活用していただきたいと存じます。当社は親会社の凸版印刷株式会社（以下「凸版」といいます。）に 50%超保有されており、自社株買いよりも特別配当（大幅増配）が適切です。大株主の凸版も、現金配当の過半を受領できるのですから、賛成いただけるでしょう。保有する残りのリ社株式についても、早急に売却して同様の方針で臨んでいただき、ROE の向上を目指していただきたいと存じます。
- ③ 以上の方策について、投資家向け説明会を開催して公表していただきたく、お願い申し上げます。

もう一つの選択肢は、凸版の 100%子会社化による当社の非上場化です。当社は、中期経営計画は公表しない、会社説明会は開催しない、社長は投資家・大株主と面談しない等、投資家・株主に非常に不親切な上場企業です。また、子会社とはいえ、取締役の過半数が凸版出身者であることも上場企業としては異例です。このまま、上場企業にも拘らず少数株主を軽視し、取締役としての責務を果たさないのであれば、非公開化していただく方が良いでしょう。

ただし、この場合、少数株主保有の当社株式を安く買いたたくことなく、公正な対価が支払われる方法で行っていただきたく、お願いいたします。

川田社長と当社取締役の皆さまのご英断をお待ちしております。
時節柄、ご自愛ください。